

佛心

二〇一七年九月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

バナナ、バナナ、もつとバナナ



これからお話しすることはもう何年も前のことになりましたが、タイにある私の仕事上の大事な納入業者へ訪問したことから始まりま

す。その会社はバンコクから離れた僻地にあり、市の境界から外れたらもう道路とは呼べないような埃りの舞う悪路を3時間も運転せねばなりません。

その日は通訳のレク・ナイ女史とホテルで待ち合わせ、午前6時に出発しましたが、外はすでに蒸し暑く、いったい今はどんな季節なのか彼女に聞きました。彼女いわく、タイには暑い季節、もつと暑い季節、最高に暑い季節の3つしかないとのこと。そして今はその暑い季節(そう、3つの中でいちばん涼しい季節)で、もつと暑い季節、最高に暑い季節はまだこれからとのことでした。

ほぼ3時間後、レク・ナイ女史がもうじき会社に到着すると教えてくれましたが、道の両側を見るなら、二本の丸太とさび付いたトタン板で作られた粗末な家々が立ち並ぶだけで、それらの家は壁もななく、家の中は外から丸見えで、面積はおそらく10フィートかける15フィート程度しかなく、多くの家は3世代で住んでいるようでした。

レク・ナイ女史いわく、それらの家はこれから行く会社の従業員の家で、私には家族がプライベートの家に住むことが信じられ

ず、また同時に自分がその会社の製品と従業員の働きに見合う対価を払っているのか疑問に感じたものです。まさしくその光景は目を見張るもので、彼らは間違いなく慎ましい人達です。

会社に着くと荷車を引いてこちらに向かってくる男性に気が付きました。その男性はおそらく90歳を超えていたでしょうが、体は細くても、木製の荷車を引くその腕は力強く見えました。

次に二つのことに気が付きました。一つは荷車の車輪が手作りで完全に丸くないこと。二つめは荷車に山盛りのバナナが積んであることでした。今までにそんな山盛りのバナナを見たことはなく、まだ茎の付いたバナナの束の高さはおそらく8フィートから10フィートはあったでしょう。

私はその老人とその荷に近づいたため車から降りましたが、彼が何かタイ語で話しかけてきたものの、私には意味が分かりませんでした。レク・ナイ女史が「バナナを売りに来た」とすぐに通訳してくれましたが、この厳しい暑さの中で手作りの荷車を引く彼を助け

たく、「いくつか買いましよう」と快く返事をしました。タイの通貨はバーツですが、その時は米ドルしか手持ちがなく、いつも持ち歩く20ドル札を一枚彼に渡ししました。

ところが次に起きたことはびっくりすると同時にとても恥ずかしいものでした。その老人はすぐさま土の上にひざまずき、額を地面にこすりつけんばかりに下げ、泣きながら何かタイ語で話しかけてきました。私はすぐさま彼と同じように頭を下げ膝を付きました。レク・ナイ女史いわく、おそらく数セントにしかならないそのバナナに対し、彼はおつりがないことを詫言るためにそのような行動をとったとのこと。

知らなかったこととはいえ、私がこの老人を恥ずかしい状況に追い込んだことを恥じました。私はすぐさま「この20ドルで買えるだけのバナナを、いま来た道沿いの人達に分け与えて欲しい」とレク・ナイ女史を通して彼に頼みました。

次の瞬間、この老人はまるで5歳児が喜びを表すように飛び跳ね、抜けた歯が見えるほどに大きな笑顔を作り、その強い腕で私を抱きしめしばらく離れませんでした。そして私も心のこもった抱擁を返しました。が、これこそ最上の人間らしさではないでしょうか。

次にこの老人はバナナの贈り物を大きな声で周囲の人達に伝えに行きましたが、周りの家から人々が続々と集まり、老人はバナナの山を分け与え始めました。この光景を見たレク・ナイ女史の目が感動に潤っているのに私は気がつきませんが、自分の目にも嬉しい涙があふれるのを禁じ得ませんでした。この光景はおそらく人生に一度あるかないかの、違う世界に住む二人の見知らぬ者同士の、ひよっとして恥ずかしい状況で終わったかもしれない、でも稀に見る素晴らしい経験ではないでしょうか。

その会社の担当者とは今後の取引につき丸一日かけて会議を行いました。結論が出たときには疲れ切っていました。その会社を後にしたときはすでに真夜中に近く、周囲は漆黒の闇になっただけでしたが、そこで何を見たかという小さな夜の滑走路のような2列の明かりでした。その光景を見てレク・ナイ女史は再び泣き始めてしまいました。私にはまったく訳が分かりませんでした。涙にあふれた目をして彼女が言ったのは、道の両側に住む人達がバナナのお礼を伝えたくずっと私たちを待っていたこと。おそらく一日中、そして夜遅くまで私たちの出発を待っていたのでしよう。私は朝走ってきた土埃の舞う道に目をやりましたが、人々が手に持つケロシンの明かりは、まるで漆黒の闇を溶かす柔らかな黄金の明かりでした。すべての人々は、何人かは腕に赤ん坊を抱え、埃が舞う道の両脇に立ち並んでいました。

私は道に立ち並ぶすべての大人、子供そして赤ん坊とハグを交わしましたが、臆面もなく感激の涙を流してしまいました。その日の朝早くには想像もできなかったバナナを積んだ荷車を引

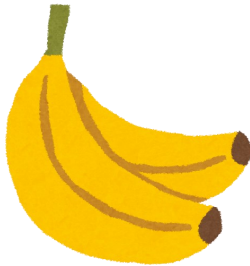
く新しい友との触れ合いでしたが、夜にはもっと多くの友との触れ合いがありました。

その滑走路のような列の最後に待っていたのは、その老人でした。彼は空っぽになった手作りの木製の荷車の前に立ち、私をまっすぐに見つめ、そしてあの忘れられない歯の抜けた笑顔を向けていました。驚くことに彼は穏やかに両手を合わせていました。合掌です。私たちは長い間、お互いに敬意を表すべく合掌を続けました。あの日の私の人生における信じられないような体験ですが、素晴らしく、明るく、慎ましいタイの人々が持つあの人間性は今後受け継がれていくでしょう。

さあ、私たちはこれからも法の道を、強さと愛、慈悲の心と感謝を込め、共に歩んで行きましょう。

感謝とともに合掌

ラリーワキサカ



ダーナ婦人会からのお知らせ

使用済み切手の収集

ダーナ婦人会では“Save the Children Fund”のために使用済み切手の収集をしています。切手を切る際は、切手本体より1/4~1/2インチ(約5mmから15mm)離してお切りください。この慈善活動は切手を販売元に買ってもらい、貧困に苦しむ国の子どもの将来のために使われます。使用済み切手をお持ちの方は、お寺のロビーにあります切手収集箱に寄付をお願い致します。

海外通貨の収集

皆様が海外へ行かれた際に使用されなかった海外通貨の収集をトロント仏教会では行っております。またJSBTC(浄土真宗カナダ教団)の婦人会連盟でもこの活動を行っており、この活動で集められた海外通貨はユニセフへ寄付されます。お寺のロビーに専用の箱が備え付けられております。ご協力のほどよろしくお願い致します。

孟蘭盆会法要

カナダ開教区東部地(オタワ仏教コミュニティ・モン

トリオール寺院・トロント仏教会・ハミルトン寺院)で
孟蘭盆会法要が勤められました。

トロント仏教会では、浄土真宗本願寺派ハワイ開教区より御講師として高橋和法先生を招きご法話をいただきました。多くのご門徒方よりこの度のご縁に会えて良かったとの声をいただきました。高橋先生、誠に有り難うございました。また、この度のお盆法要を最後にモントリオール寺院は、今あるお寺を閉めることになりました。メンバーの高齢化・減少に伴い建物自体の老朽化が大きな要因です。最後の法要を迎えるにあたってご門徒方とお話しをしたところ様々な思い出とお寺に対する深い想いを耳にしました。(後にお寺となる)建物を購入した際も修繕、修復が必要な状態だったようですが、皆で力を合わせ修理や清掃を重ねてやっとの思いで出来上がったのがモントリオール寺院でした。

ある方は「あの色褪せている壁は私のお父さんが直したところ。そしてあの天井は私の兄が直したところ」と指をさしながら誇らしげにまた寂しそうに教えてくれました。

その方々にとってお寺とは、仏法を聴聞する場、亡き人との繋がりを感じる場、離れて暮らす親族や友人が集まる場、日本語を(大戦後に)安心して話せる場、自分の思い出を語れる場、など仏法聴聞だけでなく社交の場としても思い出深い空間となっていました。それもすべて、自分たちの手で守ってきたお寺だからこそその想いです。私自身がモントリオール寺院へ3ヶ月に一度のペー

スで出向きますと、必ずと言って良いほど寺院内がご門徒の手で綺麗に整えられています。また入手できない仏具は自分たちで作っておられました。

なかには業者に依頼して週一で清掃を行うお寺もあれば、この様に月一でも自分達の手で小まめに掃除をするお寺もあります。その差は一体何なのか?ただ単に金銭の有無や門徒数の多少といったものではないでしょう。そこにはご門徒それぞれが抱く「私たちのお寺」という愛情にも似た感情があるからだと思われる。

その愛情の詰まったお寺での最後の法要は、何とも言い難い悲しさと寂しさが交錯するものでした。私自身も涙を堪えることができず、何を言っているのか分かり難いダルマトークになっていたと思います。それでも笑顔で出迎え、分かれる際も笑顔で「また会いましょう」と言って下さったモントリオールのご門徒さん方の力強さを感じたとき、改めて仏縁で出遇う不思議さとお寺という存在の有り難さを噛み締めることが出来ました。 合掌

2019年の孟蘭盆会法要 日時予定

トロント仏教会 7月13日 墓地参り・盆踊り

14日 初盆・お盆法要(日・英)

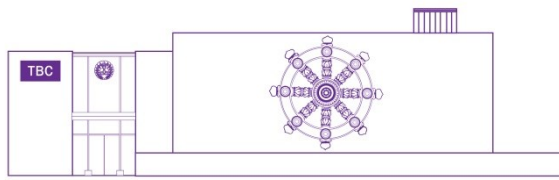
ハミルトン仏教会 7月21日 お墓参り・お盆法要

オタワ・モントリオールは追って連絡

※モントリオール仏教会は今後、モントリオール日系文化会館を利用して法要を行う予定です。

皆さんは大内先生の公休日が変更になったのをご存知でしたか。今までは毎週火曜日と水曜日に休みを取られていましたが、9月9日のラリーサンデーからは、毎週月曜日と火曜日に休まれるようになります。

もし大内先生に相談や助言等の面談を申し込む場合、あるいはイベントへの招待、もしくは個人的な招待の場合は新しい公休日を考慮してください。ただ緊急を要する臨終勤行などの場合は、大内先生まで直接ご連絡を下さい。



会員登録
新規／更新

オンライン登録
新規／更新

会員登録のお願い

2017年が過ぎ、また2018年度会員登録のお願いの季節になりました。昨年も会員登録数が増え、300名を超えました。この会員数の安定した増加基調は、トロント仏教会の明るい未来を感じさせてくれます。しかしながらいまだに会員登録をされていない方がおられます。

言うまでもなく、トロント仏教会の未来は会員の皆様のサポートに依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

1. トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。
2. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
3. “the Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
4. 現行会員による無料公証業務
5. CAA Premium-level の割引
6. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免

一般会員とは各年1月1日から12月31日まで有効ですが、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（2018年の会費は最低\$125から最低\$130に上がりました）の受理後、会員カードを送付します。

名誉会員とは77歳以上の方で、2018年度会員登録をされた方、あるいはすでに名誉会員であり毎年名誉会員の継続を表明